

コーラルテックス施工要領（リフォーム～クロスの上から～コテ仕上げ編）

ご用意いただくもの

- ☐ コーラルテックス
- ☐ 仕上げ用コテ （推奨品 ステンレス製 厚 0.5mm プラスチック製 1.0mm）
- ☐ コテ板
- ☐ ひしゃく
- ☐ 霧吹き
- ☐ 養生テープ（推奨品 養生テープ 24mm 以上 ）
- ☐ マスカー（推奨品 マスカー 1100mm）
- ☐ ブルーシート
- ☐ スポンジ研磨材 細目（推奨品 スポンジ研磨材 細目 #240 ～ #320）
- ☐ 多用途シール（推奨品 コニシ「目地・すき間壁のひび割れに」）
- ☐ ヘラ
- ☐ 道具洗浄用ブラシ
- ☐ 空バケツ
- ☐ ペーパータオル
- ☐ ヤニ止めシーラー ※アクの原因が残留してる可能性があるため

作業手順

① クロスの洗浄

クロスのひどい汚れは、洗剤を使用してきれいにしてください。
特に油汚れは接着の妨げになりますので、十分に汚れを落と
してください。

② 養生

コーラルテックスがついては困るところを養生します。
床はマスカーで、その他は養生テープを使用します。

③ クロスの補修（必要に応じて）

クロスが乾いていることを確認してから、多用途シールを
使用してヘラでクロスの破れ、目地割れを補修してください。
※ 推奨品（多用途シール）の上にもコーラルテックスは塗れます。



コーラルテックスを塗布する前の注意事項

- ※ 作業中、コーラルテックスの缶にはフタをのせて、コーラルテックスが乾燥しないようにご注意ください。
（ラップなどで空気に触れないようにするとより固まりを防げます。）
- ※ 使用後は、缶内の縁や側面に付着したコーラルテックスをペーパータオルでふき取り、霧吹きで水を少量吹きかけてフタを閉めます。
（当初にあったフィルムは捨ててください。）
- ※ 道具はペーパータオルでコーラルテックスをふき取ってからバケツに溜めた水で洗います。
- ※ 壁がボロボロとしている場合はシーラーを先に塗り完全に乾かしてから施工を行ってください。

④ コーラルテックスの塗布【下塗り】

コーラルテックスをブルーシートの上で開封し、ひしゃくでコテ板の上にのせて仕上げ用コテで出来るだけ薄く、クロス
の凸凹が平滑となるように塗布します。

塗り厚ムラが大きい場合は、塗布量が多い（厚過ぎる）状態
なので、圧を掛けて塗り伸ばしてください。

この工程で、クロスの概ねの凸凹がない状態にしてください。

コーラルテックスが付着した養生テープは、この工程後、
乾燥するまえに、一度取り外します。



⑤ ヤニ止めシーラーの塗布（気泡対策にも使用をお勧めします。）

下塗りのコーラルテックスを十分に乾燥させた後、（1日
以上を推奨します）②の要領でもう一度養生を行います。
ヤニ止めシーラーを無希釈でウールローラーまたは、刷毛
で全面に塗布します。2時間以上／20℃の乾燥時間を取っ
て完全に乾かしてください。



⑥ コーラルテックスの塗布【上塗り】

④の要領で塗布をもう一度繰り返します。

ヤニ止めシーラーが完全に乾いていることを確認して、
コーラルテックスを開封し、（乾燥したカスや粉が入った場合
は取り除きます。）仕上げ用コテでコーラルテックスを塗布し、
ご希望の模様を付けます。厚みは2mm程度までとします。

※ 細かい欠点は気にせずに大きな面としての美観を意識してください。

※ やや乾燥した箇所を補修する場合、霧吹きで水が垂れない程度に吹き
付けて補修をしてください。

※ 施工後、乾燥を促すために十分な換気を行ってください。



⑦ 補修（乾燥後）

a. 出隅（角）などの凸凹や補修したい凸部は、コーラル
テックスの完全乾燥後、「スポンジ研磨材 細目
（#240～#320）」で研磨して補修を行ってください。

b. 補修したい凹部には、コーラルテックスの乾燥後、
再びコーラルテックスを塗布することも可能です。

この場合、霧吹きで水が垂れない程度に吹き付けて
周囲と馴染むように補修を行ってください。



以上